令和8年度

やまと芸術祭一般公募展

芸術部門【絵画・書・写真】

入賞作品



Illustration:にし

【会期】絵画：10月18日～22日、書：10月24日～28日、写真：10月30日～11月3日

【時間】午前10時～午後5時 （各会期最終日は午後3時まで）

【会場】大和市文化創造拠点シリウス　ギャラリー

【主催】大和市

絵画の部

全体講評

昨年に比べ総数で若干減ったとのことです。毎年の見覚えのある方も多いようです。全体的に中年以降の方が多く少し若者の出品が増えることを期待します。やや小さめの作品が多いのと熱量を感じさせる作品が今年は少ないように感じます。とはいっても社会的問題を考えて表現される方、抽象的な自らの思いを表出される方、身近な風景や日常を優しい目で丁寧に描かれている方と、表現の幅は広いように感じます。絵を描くという行為は難しいものではありません。日々のつぶやきのように、自分が生きているささやきのように紙一枚、鉛筆一本、常にしのばせて生活の中にとりこんでくだされば きっと絵の神様は微笑んでくださるはずです。また、今日から来年に向けて佳作・良作できますように。

最優秀賞

IMAGINE-FUKUSHIMA（廃炉への道４）

山川　千春



社会的問題をとらえ、うまく表現しています。画面構成の強さ、落ち着いた色彩、筆致も、しっかり面としてとらえた所、かすれた所、手慣れて描かれています。

優秀賞

鯉のぼりのカーニバル

藤原　久子

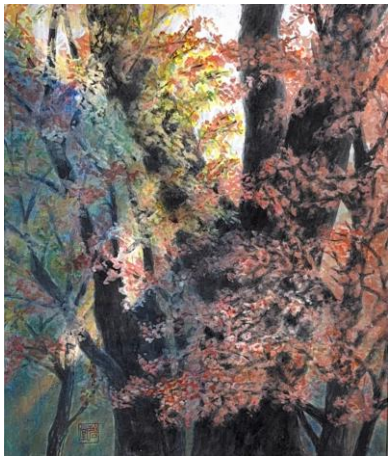


一見すると貼り絵のように見えます。小さいサイズでは容易なことでも大きいサイズで作品にしています。コラージュを施して画面の中で作家の意欲が感じられます。

優秀賞

秋色

湯貫　秀昭



墨彩画ということで出品されていますが、よく描き込まれ、美しい色彩の作品となりました。光の表現と、紅葉した葉の赤みがとくに印象的です。

秀作

紡ぎゆく絆　明吉　美智子

青の世界　岡山　弘

臨界点　熊坂　和奏

ポーション作り sumi　緑風　高橋　君江

桜　咲く　土谷　喜久美

天翔ける虹の翼の誕生　長谷部　美由紀

月影の海　廣辺　琉那

審査員

小倉　信一

岸本　凌幾

手塚　恒治

書の部

全体講評

今年度も十五歳～九十九歳まで、幅広い年齢層の皆さまからご出品をいただきました。古典に学んだ臨書・倣書から創作作品まで、作者それぞれの個性や感性が響き合う、多彩な作品が寄せられました。力強く躍動感あふれる運筆、繊細で流麗な線の表情、緻密な構成による空間美など、書の多彩な魅力が発揮されていました。高校生の瑞々しい感性や大胆さが発揮された作品も魅力的でした。

優秀賞・秀作に選ばれた作品には、古典学習を土台とした技法の確かさに加え、文字の大小や字間・行間、余白を工夫した構成力が感じられ、作者の表現に対する真摯な姿勢がうかがえました。

「書」の営みは、技術の習得だけでなく、自らの内面と向き合い、心を充実させる創造的な時間をもたらしてくれます。本展が、書の魅力を広く分かち合い、地域の文化芸術のさらなる発展につながることを願うとともに、出品者の皆様のますますのご活躍を期待いたします。

最優秀賞

萬物一馬

安食　博仙



同一印文を朱白で刻し、その実力の高さが窺えます。篆刻は字法・章法・刀法が肝となりますが、その何れもが完璧に備わっており、特に古銅印を模して刻した白文印は圧巻です。古典を踏まえつつ独創的な表現が見事です。

優秀賞

蘭亭序

岩野　之羅

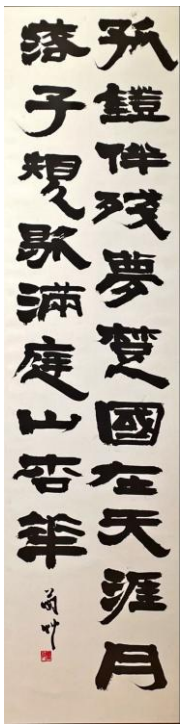


王羲之「蘭亭序」の特徴をよくとらえた作品です。筆圧の変化が豊かで、文字ごとの造形に風格が感じられます。伸びやかで力強い筆遣いと字間のゆったりとした余白が、明るい響きをもたらしています。

優秀賞

温庭筠　碧澗の駅　暁に思う

小菅　蘭草



唐の詩人・温庭筠の遠くで故郷を思う有名な詩です。楚簡の書風を取り入れ、筆圧のある太い線で終始一貫させており、重厚な作品に仕上がっています。随所に伸びのある線を使うことで疎密を生かし紙面構成にも配慮した優秀作です。

秀作

勝景銭起詩　榎本　禮清

重之集　太田　素子

呉昌碩 詩より　葛西　幸風

程明道詩　久保田　鴻穂

道法自然　坂本　愛璃

米芾蜀素帖　坪井　愛奈

佇む海猫　自作の詩　西野　青燕

避暑高楼　松井　昭

臨開通褒斜道刻石　宮崎　せな

審査員

荒井　湧山

江上　玄光

三浦　士岳

写真の部

全体講評

本年度のやまと芸術祭一般公募は過去1年以内に撮影された未発表の自己最高作品1点を出品されるということで大いに期待し、楽しみにしておりました。
作品は多種多様で風景、人物、動物、乗り物、花、スナップなどあらゆるジャンルの59点の写真が集まり、目を楽しませていただきました。
審査において重要な点はピント、適正露出等の基礎的な技術、自己の視点、テーマの深堀り等の創造性です。それらを満たしている作品が賞候補にノミネートされ、更に優秀な作品が上位入賞されました。
写真が上達するコツは、自らと対峙し、一生懸命自問自答を繰り返すことです。そこで気付きを得ることです。被写体と向き合い、決定的瞬間を捉えるのです。これで良いのか?本当にこれで良いのかと繰り返し自問自答するのです。「思い」が「言葉」になりシャッターを切る「行為」となります。ここに作品が生まれます。更に客観的に自分を見つめ感性を磨くのです。この繰り返しです。
「1枚の写真は百万語にも匹敵する」と言われ、写真の魅力を通して人生を豊かに導いてくれます。さあ今日から出発です。来年の作品に期待します。

最優秀賞

水底の虹(みなそこのにじ)

大野　高志

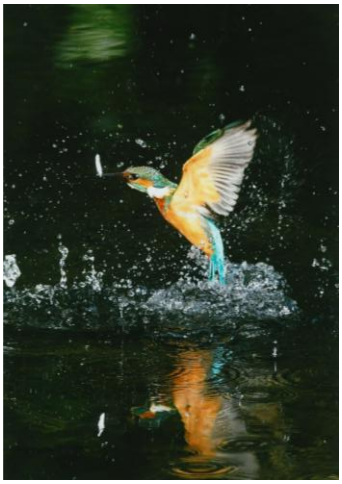


池の魚が餌をねだる光景は見慣れた物ですが、作者は魚の模様にポイントを置き、浮き上がる瞬間の水面の白い水模様と美しい作品になっています。
魚の模様を虹に例えた作者のセンスは素晴らしいと思います。

優秀賞

ジャスト、タイミング

上原　京二



空飛ぶ宝石等と言われ鮮やかな色で包まれたカワセミは最高の被写体です。
カメラの高性能化でカワセミ写真を見る機会が多くなりましたが、この作品は餌の小魚を捕食する瞬間を捉えています。作者のカワセミに関する経験とシャッターを押す迄の時間・努力を感じる作品です。

優秀賞

グリーンハウスの泡沫

安齋　吉隆



美しい花が沢山咲いているフラワーセンターでの撮影とのこと。
その中で水の濁った池に眼を向け水泡を見つけた作者の注意力は凄いと思います。
水泡には魚眼レンズのように温室全体天井部分が綺麗な模様として写っています。水面を濃くして水泡を目立させたのは良いと思います。

秀作

紅葉渋滞　大森　佳行
斜光時間　佐藤　ヒロミチ
生存競争　友野　皓子
相棒　平永　允彦
君は誰　古谷　久夫

審査員

佐野　幸弘
杉本　鉄雄